

【歌詞】

宝曆十二年（一七六二）七月市村座『花燕都秩父順礼』第二番目

本調子 カカリフシへ 荻萩の 露を命にまつ虫の はな野に鳴きて恋すちよう。合 我  
がいたづらに夜すがらも 子ゆえの闇にただ一人。合 広きうき世を義理という。合  
嘘も誠に言いかねて。仰せを否にゆく船の。合 心底尽くじやないかいな引 また行く  
月に廻り逢う。合 わかれは袖に涙川。合 つつむ縁も一筋に。解けぬ心を小夜砧 打  
つと打たれて転び寝の。笑顔も願う神かけて 尽きぬ思いを。忘れ草